

会 議 議 事 録

1 会議名	令和元年度長岡市地方創生推進会議 幹事会
2 開催日時	令和元年8月22日(木) 午後2時から午後3時30分まで
3 開催場所	まちなかキャンパス長岡 5階交流ルーム
4 出席者名	<p>(委員)(敬称略)</p> <p>長岡商工会議所 事務局次長 長谷川 和明 長岡地域商工会連合 栃尾商工会 事務局長 武士俣 利一 長岡公共職業安定所 所長 佐藤 房雄 長岡技術科学大学 総務部 総務課長 山田 毅 長岡工業高等専門学校 総務課長 大崎 博行 長岡造形大学 事務局長 久島 芳尚 長岡崇徳大学 事務局長(兼法人局長) 佐藤 清 長岡大学 事務局長 品川 十英 商工組合中央金庫 長岡支店 支店長 宮宇地 開治 大光銀行 地域産業支援部 副部長 柏櫓 学 第四銀行 長岡営業部 執行役員 長岡営業部長 堀 岳彦 長岡信用金庫 専務理事 佐藤 光一 新潟県信用組合 長岡支店 支店長 吉田 祐吉 新潟県信用組合 地方創生推進室 考査役 大平 良輔 日本政策金融公庫 長岡支店 支店長 横田 剛 北越銀行 ソリューション営業部 調査役 阿部 聡 連合新潟中越地域協議会 副議長 横澤 勝之 連合新潟中越地域協議会 事務局長 小林 守 新潟日報社 長岡支社 報道部長 小林 正史</p> <p>(事務局)</p> <p>長岡市</p> <p>地方創生推進部長 渡邊 則道 政策企画課 課長 大矢 芳彦 政策企画課 課長補佐 河上 雄一 政策企画課 係長 林 智和 政策企画課 主査 渡邊 美和子</p>

	政策企画課 主事 田中 裕也
5 欠席者名	新潟日報社 長岡支社長 八木 浩幸
6 議事	(1) 長岡版総合戦略の効果検証について(資料1) (2) 次期長岡版総合戦略の体系について(資料2)
7 報告	なし
8 審議結果の概要	・ 議事(1)、(2)について、事務局から概要を説明し、意見交換が行われた。
9 審議の内容	
事務局・政策企画課 課長補佐	<p>皆さん、どうもお疲れさまです。本日はお忙しいところをお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。ただいまより、令和元年度長岡市地方創生推進会議幹事会を開催いたします。私、長岡市政策企画課の河上と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日の会議は公開となっております。後日ホームページ等で議事録を公開させていただくことを、あらかじめご承知おきいただきたいと思ひます。</p> <p>本日の幹事会出席者様につきましては、お手元の名簿に代えさせていただきますと思ひますが、なお、新潟日報社の八木支社長様は都合によりご欠席となりましたので、ご報告させていただきます。</p> <p>それでは、開会に当たりまして長岡市地方創生推進部長の渡邊よりごあいさつを申し上げます。</p>
渡邊・地方創生推進部長	<p>皆さま、こんにちは。ご多忙のところご出席いただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>今年7月にこの幹事会の上部機関である地方創生推進会議を行ひまして、次期長岡版総合戦略の基本方針をご説明させていただきました。本日の幹事会は、この作成方針に基づきまして、より具体的な内容を説明などさせていただきます、意見交換をさせていただければと思ひています。</p> <p>長岡市では、平成27年度から令和元年度までの5年間の計画期間とした「長岡版総合戦略 長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」を策定いたしまして、この策定時に、本日お集まりの産官学金労言からなる長岡市地方創生推進会議を設立いたしまして、ご議論させていただきますながら策定してきたところす。策定後は毎年この会議により進捗管理を行ひまして、効果検証を行ってまいりました。</p> <p>本日は現総合戦略の効果検証と次期総合戦略の柱立て等、基本的な部分を説明させていただきます、ご意見をいただければと思ひて</p>

事務局・政策企画課 課長補佐	<p>おります。なお、今年度が最終年度となることから、次年度の次期総合戦略をすぐに策定いたしたいと思っておりますし、次年度予算にも反映させていきたいと思っております。皆さまから、長岡市の地方創生に向けて忌憚のないご意見をいただきますよう、お願い申し上げます。あいさつとさせていただきます。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、議事のほうに入らせていただきます。初めに長岡版総合戦略の効果検証につきまして、長岡市政策企画課の大矢よりご説明申し上げます。</p>
事務局・政策企画課長	<p>(資料1に基づき説明)</p>
事務局・政策企画課 課長補佐	<p>それでは、皆さまからご意見・ご質問をいただきたいと思えます。まず、ご質問がありましたらご発言いただきたいと思えますが、いかがでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p> <p>よろしかったでしょうか。</p> <p>それでは、今ほど、これまでの取り組みにつきましてご説明させていただいたところですが、人口減少につきましては全国的な課題であり、長岡市では長岡版総合戦略として、各柱を立ててこれまで取り組んできたところではあるんですけども、産学官金労言の皆さまがせっかくお集まりですので、皆さま方からご意見を賜りたいと思えます。よろしくお願いたします。</p>
委員	<p>この計画は5年で、最初の頃から多分、若者の地元定着を促進しなければというのは、商工会議所に所属している企業からもたくさん言葉がありました。それから4年、5年がたって、さらに人手不足が加速していますが、そんな中で、やはり若者に定着してほしいということ、そして働く場があるということをお伝えたいという企業のニーズが実はあるんですけども、なかなかそれを伝え切れていないというのが実態ではないかなと思っております。NaDeC BASEにもわれわれは参画させていただいていますが、なかなか企業をうまくそこに参画させられていないという、われわれ自身の課題と反省もあるので、いかにそ</p>

<p>事務局・政策企画 課 課長補佐 委員</p>	<p>ういう場をつくっていくかということだと思います。</p> <p>あと、この中の「教育」のところにもありますけれども、効果が表れるまで相当時間を要するということが、多分この人口減少に取り組む中で、今、大きな課題としてあるというふうに思います。先ほどの企業の魅力も、どこかにありましたけれども、長岡にいるうちに魅力を伝えるべきだったというようなお話もありますので、その辺、商工会議所としては今まであまり重要視していなかったですけれども、もっと小中学生、あるいは高校生に企業の魅力を伝える、そんな取り組みを皆さんと一緒にやっていければなというふうに感じましたので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>事務局・政策企画 課 課長補佐 委員</p>	<p>引き続き、よろしくお願ひいたします。</p> <p>商工会連合ということになりますと商業部門になりますので、この計画の中では、例えば「働く」というところで、事業者数の維持とか減少の歯止めとかとなるのですけれども、実態といたしましては、商工会連合は長岡市と合併した旧市町村と、出雲崎町も含まれておりますけれども、13の商工会で組織されている団体です。各地域とも事業所の高齢化、廃業等が続いている中で、この長岡版総合戦略の中で、どのような形でそれに歯止めをかけるかというのも非常に苦慮しているところがございますけれども、そういう実態も踏まえながら対応せざるを得ないのかなと。ただ、この総合戦略の場合、どうしても中心市街地といいますか、そこでの活動が中心となるのもやむを得ないかなというふうに私は認識しております。</p> <p>強いていえば、長岡独自の教育分野で各地域の愛着とか、そういった活動も各商工会の中で活動しながら、若者の定住や、あるいは長岡以外から長岡への魅力を感じるような事業といいますか、そういう活動を展開していければなとは思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>事務局・政策企画 課 課長補佐 委員</p>	<p>ありがとうございます。引き続き、よろしくお願ひいたします。</p> <p>私どものほうでは、この長岡版総合戦略の中では、主に「若者定着」「働く」というところで連携させていただいて、取り組みを進めているところがございます。4年前ですか、この計画を作る時よりも人手</p>

委員	<p>不足の状況は深刻になっているということでございますが、最近の経済情勢だと先行きがちょっと不安なところも出てきておりますけれども、人手不足状態は今後も変わっていかないというふうに思っております。</p> <p>そんな中で「若者定着」としては、学生へのいろんな支援をしているところです。高校生についてはだいぶ定着もいいのですが、大学生が課題です。県外から来ている方もいらっしゃるので一概には言えない部分もありますけれども、大学生の定着というのが課題かなと思っております。</p> <p>「働く」というところですけども、私どもとしましても、各企業の魅力を伝えるということが一番大切だというふうに思っています、いろんな会議所さん、市役所等、連携をしながら取り組みをしているところですけども、まだ成果はあまり上がっていないと先ほどから数字を見ると感じるところでございます。</p> <p>以上です。</p> <p>本学としては、先ほども説明のところ NaDeC BASE での活動ということで言われていまして、そういった NaDeC 構想や産学官金の連携で、地元産業の活性化とかそういったところで連携してやっていければということで、考えているところです。</p> <p>あと「若者定着」ということで、本学は全国の高専の卒業生を学部の3年のところに受け入れるという、そういった特徴のある大学で、全国から学生が来ているのですけれども、定着ということでは、だいたい新潟県出身の学生がうちに入るのは20%で、卒業して就職するのも20%ぐらいです。といっても県内出身の学生が卒業して首都圏とかそういったところに行くのと、新潟県外から来て本学に入って、そして新潟県内で就職する方がいるので、必ずしも新潟県出身の人が新潟に就職するというわけでもないで、その辺がちょうど20%ぐらいずつになっていますけれども、定着という意味ではパーセント的には同じぐらいになっています。</p> <p>逆に増やしていくとなると、もうちょっと残るような取り組みが必要だと思います。多分、今は景気とかの関係もあるので、首都圏とかそういったところに行く学生が多くなっているで、そういった傾向もあるので、学生の感じでいうと、地元の企業さんをあまりよく知らなくて、それで取りあえず名前が知れているような企業をまず選んで就職を考えるというのがあるのだと思います。地元の企業でいい企業</p>
----	---

	<p>さんがいっぱいあると思うので、その辺のところをいかにうちの学生に知ってもらおうかというのを、まず取り組みとして考えていくと、もうちょっと学生が残るんじゃないかなと思っています。</p> <p>それと、全体的に人口の推移ということで、だんだんと減っていくというのは、もう正直なところ、長岡市内で例えばそれを現状維持するとか増やしていくといっても、結局どこか周りのところから長岡市に来てもらってということになり、全国的には人口減少傾向だったら、そういった取り合いみたいな形でやっても仕方がないので、それをいかに全体的に、減るのは仕方ないにしてもいかにバランスを取るかということだと思います。今だったら、結構年齢が上の方がいっぱいいて、下のほうのところが少ないとか、そういったバランスのところを考えていくようなことをやっていって、全体的に減っていても、それでも産業とかそういったものを維持するようなことを考えていったほうが現実的かなという気はします。</p> <p>以上です。</p>
委員	<p>今日は初めて参加させていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>大して意見というほどのことではないんですけども、この中の7つの戦略の中で、本校としては「若者定着」に関わりが大きいのかなというふうに感じています。本校では、今、4大学1高専ということで、NaDeC構想の中でいろいろ参加させていただいているところですけども、本校としては地元の企業さんといろいろ連携しまして、各企業さんの課題を発見して、企業さんとその課題を解決するために、学校に持ち帰って、いろいろとチームをつくって解決に向けて研究を進めているというような形で、地元企業さんと今後とも引き続き、そういった形で一緒に頑張っていくということを考えております。</p> <p>本校については、ほとんど新潟県出身の学生でして、その中でも長岡が一番多いんですけども、就職につきましても地元で半分就職しているということで、引き続き地元の企業さんとお付き合いしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>私どもの大学も他の学校さんと同様に、この中では「若者定着」という部分での関連が一番強いかなと思いますので、そこに関連しましてちょっとお話をさせていただきたいと思います。</p> <p>今年、新しい大学が長岡市内に開学しまして、4大学1高専と、あと</p>

専門学校は確か15だったですか、あるんですけども、やはり長岡市内に市外・県外から学ぼうという考え方で来ている学生を、ここ数年来、長岡市内に定着させよう、仕事を求めさせようということでアプローチしてきましたが、これも具体的な打開策がなく、正直、個人的にはだいぶ限界に来ているかなと思っています。

実をいうと私自身が、今日は大学の職員としてここへ来ているのですが、自分の母校が東京の首都圏にありまして、自分の出身大学が、地方創生学部という学部を4年前に開設しまして、新潟県内の自治体、具体的にいうと佐渡市とか柏崎市で、長期のインターンシップで自治体に入り込んで学生が学んでいるという学部を持っています。

何が言いたいかという、地元の学生のアプローチは今までどおりやるとして、やはり首都圏もしくは中京圏・関西圏の地方創生、まちづくり、地域おこしを教育のメインターゲットとしている大学等の掘り起こしが、そろそろ各自自治体として必要なんじゃないか。逆にいうと、首都圏で学んでいる学生を長岡市内で学ぶフィールドをつくるとか、そういった学生、要は経済とかデザインとかさまざまあるんですけども、やはり大学で学ぶ地方創生が今後は重要ではないかと思う所です。一方で地方創生、まちづくり、地域おこしと関連のない学生が、地元へ残りなさいというのはなかなか難しいものがあるかなというふうに思い始めているのが実態です。

そういう意味で関連する話として、特に首都圏の学生を長岡市のほうで学びながら、将来的に長岡市に残れる、定住できる、定着できるというような制度があればいいかなというふうに思っております。

実際、私どもの大学院も昨年度より、イノベーション領域を大学院の中へ開設したんですが、大学の学部からの学生の受け入れだけではとてもイノベーション領域を充足できることはなくて、先ほど申し上げた首都圏のイノベーションに関係する学部を持つ大学から大学院生を迎えるということが、いよいよ新年度に向けてできそうなので、その辺もぜひ参考になればいいかなというふうに思ってお話をしておきたいと思います。

それからもう一点ですが、この場でお話ししていいかどうか分からないんですけども、燕三条地区の企業のオーナーと実は今年の6月から勉強会を開いており、今までに3回実施していますが、燕三条地区の企業オーナーから、本学に学んでいる学生が以前よりも県央地区に就業する機会が少なくなっているんだけど、そこをどうしたらいいかという相談がありました。その中で企業のオーナーから出てき

委員	<p>た話が、よく看護専門学校等で在学時に病院が奨学金を出して、卒業後、その病院に対して就業するという、いわゆる奉公奨学金制度がある学校があるんですけども、燕三条地区の企業オーナーから出てきたのは、県央地区の企業と金融機関が大学と一緒にプログラムを作って、在学時、3年ないし4年間の奨学金を出して、最低でも卒業後、3年ないし4年間、奨学金を出した期間は地元の企業に就業してもらうというようなプログラムを作ろうかということで、今、実は県央地区の企業オーナー等と勉強会を開催しているところです。</p> <p>そのまねをしようということではないんですが、長岡市内に4大学1高専ならびに専門学校の学生を定住、それから就業させようということであると、やはり在学時の奨学金の関係から掘り起こしていくのも一つの方法かなというふうに思っております。今日はこちらに金融機関のご担当の方々がたくさん来ているのですが、ぜひ長岡市でも同様な取り組みができれば、今までと違った形がまたできるんじゃないかなというふうに思って、お話をさせていただきました。</p> <p>長くなりましたが以上です。</p> <p>この場で申し上げたいのは、悠久崇徳学園という形で教育法人をつくっておきましてそのお話もさせていただきたいと思います。</p> <p>今年、本学は、おかげさまで長岡市、それから近隣の市町村のご支援の下に開学することができました。元々私たちは崇徳厚生事業団というグループで、医療・福祉・教育のそれと関連した6法人、これは首都圏にも機関があるんですが、3,500人の事業団の組織を背景に大学を誕生させることができました。</p> <p>今、私のほうで申し上げようと思ったことを造形さんのほうがいろいろ取り上げていただきましたが、私どもも中越地区で初めての看護大学。下越といいますか新潟それから上越のほうでは3年制の看護専門学校があるわけですが、中越地区で初めて看護でも大学4年制という形で開学させていただいています。</p> <p>一方で、今日は大学の立場で出席しておりますが、医療・福祉、特に福祉の面で、私どもの長岡看護福祉専門学校では介護福祉学科があります。ここはまだ専門学校でやっておりますが、やはり医療看護では、かなり将来の仕事に結び付けて考えておられる方も多いですが、残念ながら介護のほうは今、4月から政府の外国人活用で大々的にいわれていますように、介護にいく人材が少なくなって、われわれのほうも、外国人を受け入れることを検討しております。</p>
----	---

委員	<p>先ほど申しました私どもの看護の中越地区での4年制大学としての誕生で、それを今のこの地域の若者の定着、地域で協力して地域で働くといえますか、それに、より直接的に関係させていただいて、長岡市のテーマとされているものと一緒に取り組みをさせていただきたいと思っています。</p> <p>どうぞ今後ともよろしくお願いたします。</p> <p>入学と就職という面から話をさせていただきますが、入学からいくと、文科省が来年度から開設しました、簡単にいうと高等教育の無償化といえますか、就学支援の奨学金が来年から始まります。この9月に高等教育無償化について各大学が応募しますが、それについての選定結果が出ます。長岡の大学も全て、この高等教育無償化になり得る大学になるために手を挙げていると思いますが、新潟県では1校か2校を除いて全部手を挙げると思います。これがだんだん進んでいきます。</p> <p>今のところ住民税非課税世帯だけですが、これがなぜ怖いのか。怖いというか、大学としてちょっと脅威に感じているのは、今まで首都圏の大学に行けなかった、これは家計の問題でちょっとプライベートな件ですので、別に家計が低いことを悪いと言っているわけではないのですが、要は家計の低いところの家庭の方が、首都圏の有名大学を受験できるようになる。</p> <p>この画期的なところは、日本学生支援機構さんからも生活費が奨学金という形で、返さなくてもいいお金が出ますので、これは一番高いと年間80万～100万ぐらいになると思います。そして高等教育無償化がだんだん進んでいって、政府は幼稚園から大学まで高等教育無償化をしようと言っていますので、今、新潟県の大学進学者数が約1万人です。そのうちの6,000～6,500人が県外へ出て、県外から新潟県に連れてくる大学としては、今、長岡だと技大さんと造形さん、新潟だと新潟大学さんとか医療福祉さんとかが連れてきていますがけれども、本学は小さい大学ですので、この件について非常に危惧しています。</p> <p>それと、大学で首都圏に出た人たちが戻ってくる割合が1割～2割しかないのです、高等教育無償化によって外に出ていった人たちが戻ってこないとなると、ますます厳しくなるかなと。大学自体の入学者を確保するのも厳しいので、この辺については、かなりうちの大学としても、今、検討して苦慮していますが、この辺については長岡市さんも十分ご存じなので、非常に大変な問題。日本全体としてはいい問題な</p>
----	--

のかかもしれませんが、若者を定着させるという意味での地方については、かなり大きな問題になると。これが入学の一点です。

就職の話をしていただきます。昨年まで就職支援室長を兼ねておりましたので、本学は留学生を除いて毎年約100人の日本人の学生が卒業します。その100人のうち90～95%は新潟県内出身の学生ですので、新潟県外の学生を含んで新潟県内に就職する学生は100人のうち95%ですから、95人ぐらいおります。ただ、本社が新潟県にないところについては本社でカウントしますので、全体的に公の数字として出るときには、85%ぐらいが新潟県内に就職する形で出ます。そのうちのぐらい長岡で就職しているかという、12%ぐらいです。これは本社も何も関係なく長岡に就職する人が12%ぐらいしかいないということです。

これは今、雇用の件については、うちもいろいろ先生が調べてくれて、話をさせていただいているんですが、別に悪いという意味ではないです。県内でどこへ勤めるかという、県央から新潟地区です。新潟地区には商社機能を持った会社がたくさんあって、うちは文系ですので、商社機能を持った会社については人気があります。

それで、県央地区になぜそんなに行くのという話ですが、今ほど県央は減っているよと言われましたけれども、うちは県央に結構コンスタントに行っています。なぜかという、半分メーカーの会社が結構ある。自社製品を持っていて、自社製品の研究開発をしていて、半分は下請けをしている、けど自社製品があるという会社が結構ありますので、やっぱり県央地区は人気のある就職先になっています。

じゃあ長岡はどうかという、長岡については、サービス・小売りは結構長岡に勤めてくれるんですが、うちは全体として、学生の勤めるうち3～4割が製造業に行くんですが、長岡の製造業に入る割合が少ない。というのは、多分、長岡市内には皆さまが直接手で買って買える品物を作っている企業が少ないので、なかなか企業の名前を知ることができないのと、もう一つ、失礼ですが、やっぱり給料が安いんです。この辺の長岡地区の問題として、安いところばかりではないです、いいところもあるんですが、全体として給料を底上げするということは、非常に大きな問題として抱えていると思います。

それと、企業の魅力をつくるというところに、別に100%下請けでも構わないですが、もう少し自分たちの企業をPRできるように。関東圏から来る企業PRの冊子ですとかプロモーションビデオがあるんですが、ものすごいものが来ます。あそこまでする必要はないと思

委員	<p>ますけれども、企業 PR というやつを、もう少し自分たちの企業がこういうところに優れているということを、学生に直接伝わるようにしたほうがいいのではないかというふうに思います。</p> <p>以上です。</p> <p>よろしく申し上げます。本日この会議には初参加させていただいています。</p> <p>盛りだくさんの施策を実行されてこられたんだなというのをあらためて認識させていただいています。</p> <p>金融機関ですので、戦略としては「働く」という部分に主に関係してくるのかなと感じていますが、近年は、この市内もそうですけれども、景況的には安定した企業さんが多いところではございますが、ただ、産業を活性化していく、持続的に発展させるためには、やはり仕事をつくっていかなくちゃいけないという部分もございまして、県も市も力を入れています創業というところも今後とも重要なのかなと感じています。ただ、われわれがなかなか取り組めていなかった分野ですので、今後は市の施策にリンクさせて、ここで言われる産学官金と連携を強めて取り組んでまいりたいなと感じているところでございます。</p> <p>以上です。</p>
委員	<p>一般論的な話になるのかもしれませんが、先ほど効果の検証について話がありましたが、効果が出ているもの、あと、出ていないものがそれぞれあるんですけれども、基本的に地方創生、地域活性化というのは、本当に長期的な目線で見えていくことが非常に大事なのかなというふうに感じています。その効果の検証で駄目だったからやめるとかではなく、もっと長い目で見ていくということが必要かなと。そういう中では、効果の検証で出た結果でよかったものについてはさらによくして、改善すべきものは改善してということで、継続的に取り組んでいければいいのかなというふうに感じています。</p> <p>あと、金融機関の立場としましては、総合戦略の4番の「働く」というところが一番絡んでくるかなと思っております。実際、金融機関は従来から資金調達のお手伝いというのがメインだったんですけれども、ここ最近では起業・創業ですとか事業承継とかいうお手伝いもしておりますので、そういう面では4番の「働く」の中でも、雇用を生み出すというところにおきましては、かなり携わる部分も多いので</p>

<p>委員</p>	<p>はないかなというふうに感じていますので、これからも産官学金労言、連携しながら地方創生総合戦略の実現に取り組めればいいかなというふうに思っております。</p> <p>以上です。</p> <p>私も前回からの参加でございまして、従来の議論はあまり分かっていないのですけれども、非常に長い時間をかけてやってこられたんだなというふうに感じています。</p> <p>課題、それから方向性については記載のとおりというか、そうだよねということばかりですけれども、一つ思いましたのが、これは個人的意見ということで聞いていただければと思いますが、成果ということで、どれもそのとおりではあるものの、「ぶっちゃけ、で、どうなんでしょうか」という気がすごくします。何か差し障りのない言葉で落ちているかなという感じがして、じゃあ具体的にどうなんですかという。じゃあこれをしたことで何人増えたんでしょうかという、えげつない言い方をしないといけないのではないのかなと。</p> <p>あるいは、例えば転出超過を200人減らすとざっくり言うと、じゃあ1人食い止めるのに、あるいは1人増やすのにいくらお金をかけるんでしょうかと。極端なことを言うと、じゃあ1人大学生維持するのにいくらお金を払えるんでしょうかということをもっと議論しないといけないと思います。</p> <p>要するに、そのお金を誰のためにどこに払うのかということをもう少し深掘りしないと、何となく総論で、結局は統計上のぶれで、多分これは日本全体とトレンドが同じだと思うんですけれども、要するに「よく分からないが、統計的には思ったよりは楽でした」、今度は、「思ったより日本全国統計よりも子どもを産まなくなったので減りました」に終始してしまわないのかなという気がします。</p> <p>それから、いずれもやっていくことについては、これも賛否両論あると思うんですけれども、いろんなことを充実させる。もちろん大事ですけれども、どんなに長岡の中で充実させていても、長岡以外の人に分かってもらわなければ伝わらないですよ。「あ、そういうことをやっているのか、じゃあ行こう。あ、そういうことをやっているの、じゃあ引っ越ししよう」ということをPRという面で、どんなにいいことをやっても、あるいは、すごく月並みなことしかしてなくても、ちゃんと伝われば、「うん、なるほど」と思ってもらえるというのがあると思います。やること自体も大事ですけれども、それが外</p>
-----------	--

委員	<p>に伝わらないともったいないよねという気がしました。</p> <p>最後に金融機関として、これは今まで両行がお話いただいているのでほとんど同じことですけれども、私どもとしまして、いわゆるビジネスマッチングというような形で事業承継のお手伝いはしているつもりでございます。逆に県外にマッチングしてしまうということもあり得ますが。</p> <p>今、具体的にやっているわけではないんですが、テレビを見ていますと、うどん屋さんか何かで、すごく流行っているうどん屋けれども、後継者がいないと。で、うどん屋をやりたいという人間がいて、そこが後を引き継ぎましたみたいな感じの話がありました。</p> <p>長岡でやっている仕事はいろいろあると思うんですけれども、正直、新潟市に比べると、やっぱり伝統的な、面白いなと思うようなジャンルというのが結構あるかなと思います。通り一遍じゃなくて、昔からやっています、それだけに後継ぎがいません、みたいな話があるのであれば、積極的にこういう仕事でやりませんか、みたいなものを県外に発信して、応募でも募集でも、ということができるのかなという。これは昨日のテレビを見た中での話ですけれども、そんなことも金融機関としてお手伝いできればなというのは感じました。</p> <p>以上でございます。</p> <p>金融機関の立場で、今ほどいろいろお話がありましたので、働く場所、事業先、減らないように事業承継とかマッチングとか、いろんな面で、十分とは言えませんが、金融機関としてそれぞれが一部はやっていると思います。</p> <p>この7つの戦略があるわけですが、その中で「子育て」というのは金融機関と直接関係はないですが、そういう世帯に対してはいろいろな優遇とか、そういうことで側面から支援をしている部分もあります。</p> <p>学校のほうも、生徒・学生の確保とか、できるだけ地元とか、いろんな取り組みをされている中で、この資料を見ますと、これは人口減少という問題で、出生率の目標が2.19に対して1%台という、ここが長岡市の人口を減らさないために一番重要なところです。</p> <p>ただ、子どもが生まれないので、そのために結婚を増やすことが重要だと思います。やっぱり地元で結婚して子どもが増えないと高齢化で自然減という、当然数値が見えているので。それだけに本当に難しいと思いますけれども、行政を含めて、お見合いパーティーとか、結</p>
----	--

<p>委員</p>	<p>果は分かりませんが、そういった取り組みをこつこつ継続的にやっていく必要もあるのではないかというふうに思います。</p> <p>以上です。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>先ほど来、いろんな施策の中の部分でお話がありましたけれども、私が個人的に感じているところではございますけれども、手前どもの職員も、やっぱり子どもが小さい、いわゆる3歳未満児で共働きだというような方が結構います。子どもが病気になったり何かしますと、非常にその部分に手を取られて、病院に連れていったりというのがございまして、なかなか仕事に集中できない。中には子どもさんの身体が弱いと、会社に迷惑を掛けるので退職してしまう、というようなことがございますので、そういう3歳未満児だとか、未就学児に対する共働きの部分の中において、他の市町村とは違った支援といいますか、そういう部分があれば、また長岡市のいい部分として定着してくるであろうし、先ほどの話じゃないですけども、人口の部分につきましても、ちょっとは増えていくのではないかなというように思います。何か子育て支援の拡充の部分をやっていただければなというように形で思っております。</p> <p>それから、先ほど来、奨学金うんぬんという形の中の話がございました。非常に今、厳しい経済環境の中におきまして、やっぱり教育にかかる費用というのは膨大な部分でございまして、ここに金融機関が絡んで、産官学金で何とかそういう新しいような奨学金といいますか、そういう部分も、今後の部分について検討させていただければなと、協力させていただければなと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>委員</p>	<p>今日、初めて参加させていただきました。</p> <p>私、本部の地方創生推進室というところにおりまして、実は地方創生推進室というのは最近、7月1日付で新しくできた部署です。私どもとしまして、地方創生、地域の活性化というところに、今までよりもお役に立ちたいというところでした部署でございます。</p> <p>ずっとお話がありましたとおり、金融機関ということになりますと、「働く」という分野のところを中心になってくるかと思っておりますけれども、それ以外のところでも、お役に立てることがあると思っておりますので、そういったところでお役に立っていきなと思っております。</p>

委員	<p>し、皆さまと一緒に長岡市の地方創生に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。</p> <p>以上です。</p> <p>先ほど来から起業・創業というお話が出ていますけれども、当然、私どもも金融機関として起業・創業、一生懸命注力させていただいています。</p> <p>私ども、全国で年間2万8,000事業所に創業のご融資をしています。当然、いろんな金融機関さんで創業のご融資を受けられるという方もいらっしゃるんですけども、私どものところで、せめて長岡市内で50～60件ぐらいの創業のご融資を取り扱うパワーがある地域ではないかなというふうには思います。</p> <p>やっぱり何か足りないんじゃないかなというふうに、ちょっと思うところがあります。非常にもったいないなという気持ちもあります。特に長岡の、このように各大学さん、高専さんもいらっしゃる、4大学1高専、ここは非常にいいと思います。高校生とか中学生ぐらいから起業教育をしていかないと、多分、将来起業しようとみんな思わないんじゃないかなと。</p> <p>そういう意味では、ながおか・若者・しごと機構さんが主催されている長岡しごと体験ランドをご案内いただきましたが、これは非常にいい取り組みですよ。ただ、対象が小学生なんです。じゃあ中学生と高校生はどうするのかというところも、やっぱり長岡市として考えていく必要があるんじゃないかなと。やっぱり起業・創業ということになると中長期的な、10年15年かけて、そういう土壌をきちっと整備するというようなところは考えていく必要があると思います。</p> <p>弊社も高校生のビジネスプラン・グランプリというのをやっております、昨年は長岡市からは長岡工業高校さんがエントリーしていただいたんですが、他の高校さんはエントリーしていただけていない状況です。今年度は長岡高専さんが、エントリーをしていただけそうなので、非常にありがたいお話なんですけれども、そういったところもぜひ活用していただいて、長岡市の起業・創業の教育に注力していただいてもいいのかなというふうに思っております。</p> <p>先ほど事業承継の話があったんですけども、特に新潟県は事業承継が進んでいない、でも廃業する人が多いという現状があります。事業承継を一つの創業の形にしてもいいと思うんです。昔でいう居抜きですか。いろんな開業の形があると思うので、飲食店だけに限らず居</p>
----	--

<p>委員</p>	<p>抜きみみたいな形で、小規模事業者の方の事業所を数百万円、数十万円 で買い取るようなことができれば、新たな創業の形にもなるのかなと いうふうにも思いますので、ぜひその辺も深掘りをしていただいて、 お取り組みをいただけるとありがたいなと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>本日はよろしく願いいたします。私も本日初めて参加させていただ きます。</p> <p>この長岡市のいろいろな総合戦略として、さまざまなことをされて いるのだなということ、初めて知ったので、ちょっとびっくりして おります。このいろいろな戦略に対して交付金を支給して盛り上げて いくという取り組みをされていると思うんですけども、その交付金 がしっかりと使われているといったところの検証もさらに必要な と、個人的な意見なんですけれども、思いました。</p> <p>また、金融機関としてなんですけれども、先ほど来、他の金融機関 様と同じではあるんですけども、創業支援のご融資ですとか、あと ビジネスマッチングでの販路拡大といったところで、長岡市の企業様 の支援をさせていただくことができると考えていますので、また連携 を深めて一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願い いたします。</p> <p>以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>私どもは労働団体ですので、やはり働く場、働きやすい職場をつく っていく。そういったことを通じながら、本当に住みよい長岡市をつ くるということへの貢献ということができればというふうに考えて います。</p> <p>私どもは、働くことを軸とする安心社会、それを実現しようという ことでの取り組みということでもさせていただいております。総合戦 略の関係でいきますと、策定の時にも何度かお話しさせてもらった内 容ですが、ワーク・ライフ・バランスの推進ということが一番じゃな いかなと思っております。長岡市さんでは、働き方プラス応援事業と か、さまざまな取り組みをされて、本当にありがたいなというふう に思っているところであります。</p> <p>特に長岡市の魅力ということの中で、子育てしやすい長岡市とい うことでも挙げられていますけれども、その中で昨年度、子育てプラン のニーズ調査というのを長岡市さんでされたかと思うんですけど</p>

委員	<p>も、その中でも子育ての中の一番の要望というのが、「子育てに理解のある、子育てしやすい職場環境」というのが一番のニーズだったと記憶しています。そういった意味で、本当に人口減少の中でどうしても出生率が下がっているところがありますが、その中で、子育て支援の一番は働きやすい、子育てに理解のある、そういった職場を増やしていくことだなというふうに思っています。そういった意味では、私どもも労働団体として努力していきたいというふうに思っています。</p> <p>あともう一点、ワーク・ライフ・バランスの関係でいきますと、長時間労働の是正ということで、余暇時間が若干出てくるかと思いますが、そういった時間を活用しての地域づくりなどの活動にぜひ、特に若者から参加してもらいたいということで、私ども独自でも取り組みを進めていますが、長岡市さんのさまざまな若者向けの取り組みにも、ぜひ多くの若者から参加してもらえるように、私どもからも働き掛けをしていきたいと思っています。</p> <p>特に今の若者は出会いの場が少ないというのをよく言いますけれども、いったん就職してしまうと会社、職場だけの付き合いということが非常に多くなっているようでありますので、そこを超えていける、そういった、ある種、市民協働の取り組み。そういったことも通じながら、出会いの場づくりも兼ねて、かつ地域の活性化ということも果たせるようにしていければいいかなと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>今ほどの部分のお話の続きになるかもしれませんが、先ほどの中で、給与が低いというようなお話があったように思います。先般、新潟県の最低賃金が830円ということで答申されました。まだ決定ではなく、今後は異議申し立てを受けることとなりますが、近隣の県と比べると、やはり新潟県が低いです。富山県と長野県と群馬県と比べても、やはり新潟県のほうが低い。そういった中で、やはり学生が首都圏に出ていく。これはもう、やむを得ないこともあるのかなというふうに一方では思います。</p> <p>ですから、このお金の違いと、引き換えになる魅力、こういった部分をしっかりと長岡市のほうで、当然この地域の企業とも連携しながらつくっていく。これが必要になってくるのかなというふうに思います。</p> <p>そういった意味でも、私たちは労働団体なものですから、全ての会社に組合があればいいんですけれども、なかなかそういう実態にはな</p>
----	--

委員	<p>っておらず、10人に2人も労働組合の組合員がないというような状況などもございます。17.1%という組織率になっていまして、地方では、なおさらこの17.1が少なくなっているというのが実態でございますので、いずれにしてもワークルールに基づいた働き方がしっかりと長岡の中で実施ができる、あるいはワークルールで認められているさまざまなものが企業の中で取得できる、そういった環境づくりも含めた対応が必要になってくるのかなというような感じがします。</p> <p>先ほど、いろんな市民の方々へのセミナーみたいな話がありましたが、そういった意味でも、市民全体に通じるような、われわれとしての営みもこれから継続してまいりたいと思いますので、いろんな意味で勉強させていただきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>私も今回初めて出席させていただいて、ああ、このようなことをやられていたのだなど、非常に勉強になりました。</p> <p>やはり皆様のご意見を聞いていて、一番感じたのが、先ほど差し障りのない言葉で成果が書かれているというご指摘があったかと思うのですが、私も確かにそれは感じました。とんがったようなことを書くと、確かに差し障りがあるのかもしれませんが、仮にこういった議論をする場であれば、もっと本音の部分を出して、非常にもっと裸の部分を出してもいいのではないかと思います。</p> <p>成果の中で私は一番、うちの部員が書いてくれた連載があったので感じたこととして、子育ては非常に長岡というのはよく充実しているという事です。</p> <p>あと、いわゆる企業の名前が知られていないとかというお話が出てきましたけれども、それは多分、私どもも、もうちょっと力添えといえますか、助力できることもあると思いますので、その辺、ちょっとこの先、考えていければと思っています。</p> <p>あと、総合戦略ですけれども、非常にきれいな言葉でよくまとまったパンフレットが多い印象ですが、もっと一般市民に分かってもらう場合は、具体的なものが出来たほうがいいのかと思います。きれいな言葉ではないものを出していくことも必要なんじゃないかと思います。</p> <p>この先、どうしても人口減少は止められませんし、人口が縮小していくことに合わせた、その中でも生きていけるような戦略を次は考えていくべきではないかと思います。</p>
----	--

事務局・政策企画 課 課長補佐	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。皆さま方から頂戴いたしましたご意見を参考に、今ほどご意見をいただきました具体的かつ数値的な部分を含めて目標設定に取り込んでまいりたいと思っております。</p> <p>それでは、続きまして次期長岡版総合戦略の体系につきまして、ご説明申し上げます。</p>
事務局・政策企画 課長	<p>(資料2に基づき説明)</p>
事務局・政策企画 課 課長補佐	<p>今ほどのご説明に対しまして、ご意見・ご質問がございましたらご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>よろしかったでしょうか。それでは、議事としては以上で終了となります。</p> <p>最後、その他といたしまして、今後のスケジュールにつきましてご説明申し上げます。</p>
事務局・政策企画 課長	<p>では、今後のスケジュールということで、簡単ですが説明させていただきます。</p> <p>次期総合戦略につきましては、国も同様に動いていますけれども、国の戦略が12月に策定される予定となっております。地方版の総合戦略につきましては、先ほど申し上げましたが、国の総合戦略を勘案して地方版を策定することになっておりまして、国が12月に策定されますので、それを勘案しまして、年明け以降、今年度中に策定をしていきたいというふうに思っております。</p> <p>これから庁内で検討を進めまして、今年中に幹事会をもう一回開催させていただければなというふうに思っております。</p> <p>国のほうも地方創生に当たりまして産官学金労言による PDCA サイクルを求めています。そういったことから、毎年、このような会議を開催させていただいて、皆さまからのご意見をまたいただきたいというふうに思っております。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。</p>

<p>事務局・政策企画 課 課長補佐</p>	<p>今後のスケジュールにつきまして、ご意見・ご質問等ございましたらご発言いただきたいと思います、いかがでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>では、ないようでございますので、以上で終了とさせていただきますと思います。</p> <p>本日は貴重なお時間・ご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。これをもちまして、令和元年度長岡市地方創生推進会議幹事会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
<p>9 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次第・出席者名簿・配席図 ○ 長岡版総合戦略 長岡リジュベネーション ○ 長岡版総合戦略 長岡リジュベネーション概要版 ○ 資料1 長岡版総合戦略の効果検証について ○ 資料2 次期長岡版総合戦略の体系について 	